

令和7年度「日本ホッケー協会賞」受賞者の紹介

※年齢は2025年12月1日現在

河村 一夫 氏 (78歳) オリンピアン

選手として、1968年メキシコオリンピックに出場されたほか、アジア競技大会、ワールドカップなど数多くの国際大会で日本代表として活躍されました。天理大学在学時には中心選手として全日本学生選手権大会優勝に貢献するなど、輝かしい実績を残されました。

大学卒業後は、千葉県内の高等学校において教員として勤務され、とりわけ大原高等学校では長年にわたりホッケー部顧問として指導に当たられ、多くの選手育成に尽力され、また、審判員等、競技役員としても活動されるなど、競技運営にも精力的に携わってこられました。

千葉県ホッケー協会では事務局長を39年間、理事長を17年間務めるなど、地域の競技力向上と普及発展に長年にわたり寄与され、本賞の受賞に相応しい実績を有しています。

1947年 大阪府出身

1965年 大阪貿易学院高等学校卒業後、天理大学に入学。在学中に全日本学生選手権優勝

1968年 メキシコオリンピック日本代表として出場

1970年 千葉県立大原高等学校に着任。1989年まで大原高校ホッケー部顧問として
19年間指導

1995年～千葉県ホッケー協会理事長、2010年ゆめ半島千葉国体いすみ市実行委員会勤務

中村 康夫 氏 (享年 74歳) 元日本ホッケー協会専務理事

明治大学ホッケー部で活躍されたのち、羽衣学園中・高等学校にて約40年にわたり生徒の指導に携わり、羽衣学園高等学校では、全国高等学校総合体育大会や国民体育大会での優勝など、数々の実績を挙げ、指導者としての手腕を発揮されました。

また、教育現場にとどまらず、全国高等学校体育連盟ホッケー専門部副部長や大阪ホッケー協会常務理事、さらに関西ホッケー協会理事長として協会運営に尽力されるなど、地域レベルや広域レベルでのホッケーの環境整備に大きく寄与されました。

さらに、日本ホッケー協会においては理事、専務理事として全国組織の運営や競技の普及・強化に重要な役割を果たされ、長年にわたり日本ホッケーの発展に寄与されたその功績は多岐にわたるもので、本賞の受賞に相応しい実績を有しています。

1951年 大阪府出身
1969年 大阪星光学院高等学校卒業後、明治大学に入学
1975年 羽衣学園中・高等学校に着任、ホッケー部監督として長年指導
1992年 大阪ホッケー協会 常務理事に就任
2006～2022年 関西ホッケー協会理事長、日本ホッケー協会理事・専務理事などを歴任

※中村氏は推薦時点でご存命だったことから、本賞受賞の対象と致しました。

恩田 昌史 氏 (86歳) オリンピアン・元女子日本代表監督

天理大学在学時に全日本選手権大会優勝など多くの実績を挙げ、1968年メキシコオリンピックでは日本代表副主将として活躍され、トッププレイヤーとして日本ホッケーを牽引されました。

また、1965年より天理大学体育学部で教育・研究に従事し、講師・助教授・教授として学生の育成に尽力され、学部長も務められました。また、天理大学ホッケー男子部・女子部の監督として全国大会優勝へ導くなど、卓越した指導力を発揮されました。

さらに、日本ホッケー協会理事、日本学生ホッケー連盟初代理事長、関西学生連盟会長として競技運営体制の整備に寄与され、高円宮杯日本リーグ創設にも尽力されました。2004年からは女子日本代表監督として北京オリンピックに臨み、国際舞台でも日本ホッケーの発展に貢献されるなど、本賞の受賞に相応しい実績を有しています。

1939年 大阪府出身。
1959年 白頭学院建国高等学校卒業後、天理大学へ入学
1958年 アジア競技大会3位、1968年にはメキシコ五輪に副主将として出場
1965年～天理大学体育学部で講師となり、のち助教授・教授を経て1998年に体育学部長を務める。天理大学ホッケー男子部・女子部監督として全国大会優勝を多数達成
2008年 北京五輪女子日本代表監督を務めた。アテネ・北京・ロンドン五輪等に多くの代表選手を育成、輩出